



三四郎

夏目漱石【著】
岩波書店 1999 年（改版）

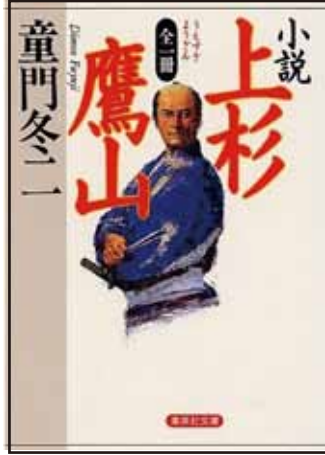
推薦者：教員 神鳥成弘

紹介文

熊本の高等学校（旧制）を卒業して東京大学に入学した三四郎は、広田先生をはじめ個性豊かな人々と交流するようになる。物語は大きな展開もなく平々坦々と進んでいくが、いつしか読者である自分も広田先生の家に入りしっている一書生のような気がしてくる。漱石の名文にのって、日本の明治末期という時代を感じてみてください。

レポート課題

物語は、三四郎がある言葉をつぶやいているところで終わります。その後の展開がどうなるか、自分なりに想像（創造）して、簡単な漱石風の文章にしてみましょう。興味がある方は、「三四郎」→「それから」→「門」と読み進んでみるとよいでしょう。



小説 上杉鷹山

童門冬二【著】
集英社 1996 年

推薦者：教員 三野靖

紹介文

高邁な理想に燃え、優れた実践能力と人を思いやる心で、家臣や領民の信頼を集めた上杉鷹山（米沢藩主）。破滅の危機にあった藩の財政を立て直すべく、改革に乗り出す。現代の行財政改革や組織における改革の洞察力を与えてくれます。

レポート課題

「組織における改革にとって肝要なことは何か」、本書を読んだうえで、自らのこれまでの経験も踏まえて、これから社会に出るにあたっての考えを述べてください。



それから

夏目漱石【著】
岩波書店 1989 年（改版）

推薦者：教員 山下直子

紹介文

『それから』は夏目漱石の小説です。漱石の作品は教科書などで読んだことがあるとは思いますが、ぜひ一度、本を手にとってほしいと思います。この作品が新聞に連載されたのは 1909 年。100 年前の明治の世界を想像しながら読んでください。『三四郎』『それから』『門』は三部作と言われて

いますので、『三四郎』も読んでみてください。

レポート課題

『それから』の中で、最も印象的な場面あるいは言葉を取りあげ、なぜそれを選んだのかを述べなさい。



晏子

第1巻～第4巻

宮城谷昌光【著】
新潮社 1997 年

推薦者：教員 高木由美子

紹介文

大小いくつもの国が乱立した古代中国春秋時代に斉に生きた晏弱晏嬰父子の物語である。礼を実践するとはどういうことか、緊迫する国際関係の再度重なる苦境に登場人物はどう対処するのか。国の存亡の危機を救った策とは何か。著者はたくさんの中国歴史小説を書いており、余力のある学生は「長耳」、「子産」なども読み、歴史小説の醍醐味を味わってもらいたい。

レポート課題

歴史から現代に生きる私達が学ぶべきものは何か？貴方の論点を明確に記述し、作品に即して論じなさい。最も印象に残ったエピソード等を最低一つ記載すること。



沈黙

遠藤周作【著】
新潮社 2003 年（改版）

推薦者：教員 中島美登子

紹介文

江戸時代のキリシタン弾圧のなか、ポルトガル司祭や隠れキリシタンである貧しい農民が神社とは何か、信仰とは何か問い苦悩する物語である。宗教とは何か、信仰とは何かということを考えさせられるだけでなく、どのような過酷な状況におかれても他者に寄り添う力を保ち続

けられるのか、生きるとは何か等のさまざまな問いを考えさせられる作品である。

レポート課題

この作品が問いかける問題の中であなたが最も強く感じた点について自由に論じなさい。

レポート課題

- ①自分が抱いていた野口英世像と比較して、本作品を読んだ後の人物像とはどのような面に関して印象が変化しましたか。自分の意見を論じてください。
- ②野口英世が、少年期、青年期、壮年期を経るに従い、英世の中の内面で変化したこと、変化しなかったことはなんですか。自分の受けた印象含めて論じてください。



遠き落日

上・下巻

渡辺淳一【著】
角川書店 1982 年

推薦者：教員 横山佳充

紹介文

本作品は日本人なら誰もが知っている「野口英世」を事実に基づいて描いた作品である。我々の野口英世像は身体的ハンディキャップを努力によって克服し、世界的名声を得た立身出世物語として偶像化され、道徳教育などにおいて脚色を含んで紹介されている。しかしながら、本作品の描く野口英世は、名声と称賛を希求するバイタリティに溢れながらも、エゴイスティックな人間的な欠陥を含む一人の悩める人間であった。



失われた時を求めて

（いずれかの篇）

マルセル・ブルースト【著】
鈴木道彦【役】
集英社
2006 年～2007 年

推薦者：教員 三宅岳史

紹介文

ある日突然、失われた時（＝忘れていた記憶）とともに、死をも超克するような強い歓びが〈私〉に訪れた。その正体を探究するため、〈私〉はベル・エポックのフランスを背景に、社交界、恋愛、芸術の世界を横断していく。

レポート課題

- 次の 1, 2, 3, いずれでもよい。
1. 本書には数多くの人物が登場する。〈私〉を含めた登場人物からあなたの印象に残った人物を選び（複数可）、その人物について自由に論じなさい。
 2. 本書には至る所に芸術論が述べられている。それについてあなたの考えを自由に述べなさい。
 3. 失われた時（これまで忘れていたことがあることをきっかけに偶然よみがえる記憶＝コンブレイ時代の記憶など）について自由に論じなさい。

→本書は長編のためどのページの何を論じているのか必ず記載すること

1 篇だけならば『スワン家の方へ』が望ましいが基本的にはどの篇を読んでもよい。文庫で分冊の場合は、その篇（そのほかに『花咲く乙女たちのかげに』、『ゲルマントのほう』『ソドムとゴモラ』、『囚われの女』、『逃げ去る女』、『見いだされた時』の篇がある）は読みとおすこと。ただし集英社文庫の抄訳は不可。

